

猿島踏査報告書

横須賀建築探偵団 吉田作成

- 日時 R4.11.2 1130-1600
- 参加者 富澤、岩崎、関、小森、吉田
- 案内者 請地さん

- 目的 猿島のブラフ積み等石積みについて調査する。
千代ヶ崎砲台やその他横須賀市内のブラフ積みとの比較を行う。

○ブラフ積み擁壁に関する調査結果

- ・猿島島内において、はブラフ積みは3カ所見られる。

①ガイダンスセンターから北に向かう塁道の両側にあるブラフ積み。

- ・明治14年、最初弾薬庫、掩蔽部、砲台、高塁道がある右側だけ最小限の擁壁整備。明治30年、左側を整備。

・右側は、猿島Ⅰ期明治10年代に整備されたもの。長短比は、2：1。明治20年代以降の千代ヶ崎砲台ブラフ積み等陸軍仕様と同様のもの。ただし、短辺の長さが45cmと以上に大きく、明治20年代以降のブラフ積みには見られないサイズ。擁壁も垂直ではなく日本的石垣積みの傾斜となっている。

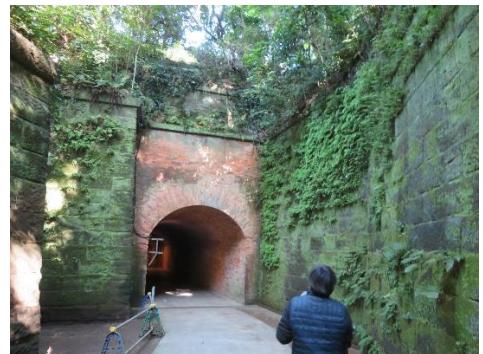
・左側は、猿島Ⅲ期明治30年以降に整備される。長短比は、3：1。明治30年代以降の陸軍の砲台ブラフ積み等陸軍仕様と同様のものと思われる。短辺の長さが30cmと明治20年代以降のブラフ積みと同様である。擁壁も垂直となり近代的積み方となっている。

②隧道に繋がる塁道の右側にあるブラフ積み。

- ・明治14年、①の連続部分と考えられるため擁壁整備。左側は岩盤のため、擁壁は作らず露天。
- ・右側は、猿島Ⅰ期明治10年代に整備されたもの。①の右側と同様の仕様。

③隧道入り口の両側のブラフ積み。

- ・明治14年以降整備。右側だけでなく、左側もブラフ積みがある。貯水所確保のためと思われる。仕様は、①②の右側と同様の仕様。



①ビジターセンターから北に登る塁道 ②隧道に繋がる塁道

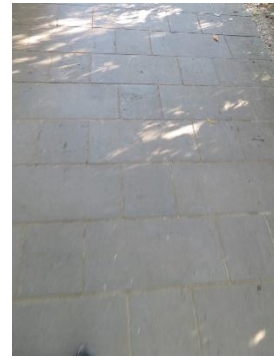
③隧道入り口



① 塁道左側。長短比 3 : 1



① 塁道右側 長短比 2 : 1



ビクターセンター前坂道の歩道（ブラフ風）

・砲台の整備年とブラフ積み石材の寸法、長短比は以下の通りであることがわかる。

- ・砲台名 観音崎初期→猿島Ⅰ期Ⅱ期→千代ヶ崎砲台→観音崎南門→観音崎三軒家→猿島Ⅲ期
- ・時代 M13- M14 M25 M27 M30
- ・寸法 →45cm 30cm → 30cm → 30cm
- ・長短比 不鮮明 →2:1 2:1 2:1, → 3:1



観音崎第1砲台



猿島Ⅰ期



千代ヶ崎砲台



猿島Ⅲ期

・猿島のⅠ～Ⅲ期については「横須賀市文化財調査報告書第51集」による。

○その他石積みに関する調査結果

- ・栈橋部については安山岩の石積み
- ・栈橋部に続くふ頭部はブラフ積みで長短比 3:1 の房州石で浸食が激しい。整備年度は不明。
- ・猿島周囲の侵食対策護岸については、安山岩谷積みが主流。一部南側護岸谷積み。



猿島栈橋及びふ頭護岸



猿島西側護岸



猿島東側護岸

○猿島各施設調査結果について今後まとめる予定。

○参考 砲台整備年

観音崎初期→猿島 I 期 II 期→千代ヶ崎砲台→観音崎南門→観音崎三軒家→猿島 III 期

M13 M14 M25 M27 M30

- ・ 観音崎砲台(北門第 1 M13-27) (北門第 2 M13-22) (北門第 3 M15-27) (北門第 4 M13-24) (三軒家 M27-28) (南門 M25-33)、
- ・ 千代ヶ崎砲台 M25-27
- ・ 猿島 I 期(M14-19) II 期(M24-27) III 期(M30-34)

○参考文献 横須賀市文化財調査報告書第 5 1 集東京湾要塞(猿島砲台跡、千代ヶ崎砲台跡) 2014.3
横須賀における「ブラフ積み擁壁」に関する研究(吉田) 2021.5

○猿島新旧マップ なかなかの優れもの



